

## 「日本ピア・サポート学会第18次海外研修 - シンガポール」の概括

国際交流委員会

### シンガポール研修に出発するまで

シンガポールのスクール・カウンセリングや子どもたちの全人的教育の現状について、直接に見聞することが本学会の設立趣旨にも合うと考え、名誉会員となられたブライアン・リー先生にもご協力いただき、現地との交渉が始まりました。現地では、本学会の訪問に関して、シンガポール教育局での会議にかけ、受け入れが決定されました。

その後、現地の担当者との調整を行い、時期や活動内容を決め、旅程の確定と手配をして、会員の皆様にご案内しました（表1）。

### 参加された皆さん

夏季休暇直後の設定でしたが、幼稚園から大学やシニアに関わっておられる方々まで、総勢30名の参加申込がありました。現地からも30名の受入をご承諾いただき大所帯での研修となりました。参加された皆さんには、学会員の方を中心に、非会員の方も交えて、何らかの担当を担っていただき、役割を分担していただきました。また、帰国後には、10月に予定されていた年次大会に間に合うよう、大急ぎで恒例の研修報告書を作成していただき、八柳和夫編集長の指揮のもと、学会員全員に研修の学びが共有できるようご協力くださいました。皆様、深謝です。本当にお疲れ様でした！

### シンガポールで訪問した教育機関

「日本ピア・サポート学会第18次海外研修 - シンガポール」では、2校の中等学校と、1校の初等学校、そしてシンガポールの文部科学省にあたる教育局と、外部機関として学校教育をメンタルヘルスの側面から支える医療機関の訪問をしました。以下に簡単な概要を示します。

#### Kent Ridge Secondary School

特筆すべき取組は、「モチベーション向上」でした。生徒教職員に、評価の全体計画が示され、玄関に優秀教員や各分野の優秀生徒など、表彰者の写真が並んでいました。特進学級や普通学級などがありますが、様々な視点から評価をしており、全生徒にチャンスがあるようでした。

表1 2016年JPSA第18次海外研修 - シンガポール日程表

日時	スケジュール
8/16 (火)	各空港を出発 夕刻 シンガポール着。入国手続後ホテルへ 【シンガポール泊】
8/17 (水)	午前 シンガポール教育局(MOE)訪問。教育、生徒指導等の説明 昼食 MOE主催の昼食 午後 学校訪問①：Kent Ridge Secondary School 管理職・スクールカウンセラー・生徒発達チーム担当と交流。校内見学 夕刻 ホテル帰着（夕食：研修参加者で懇親会） 【シンガポール泊】
8/18 (木)	午前 外部資源 Institute of Mental Health（メンタルヘルズ協会）訪問。 学校支援体制及び児童生徒支援 REACHプログラムの説明 午後 学校訪問②：Hougang Secondary School 管理職・生徒発達チームと交流、校内見学 【シンガポール泊】
8/19 (金)	午前 学校訪問③：Westwood Primary School 訪問。管理職から学校の説明。スクールカウンセラー・生徒発達チームと交流。校内見学。 午後 MOE 訪問。JPSA：日本の生徒指導・教育相談・PS実践・学会の説明。MOE 担当者：いじめ等予防の説明。質疑応答 夕刻 現地関係者を招いての Friendship Dinner 【シンガポール泊】
8/20 (土)	午前 シンガポール半日観光と飲茶ランチ、終了後自由行動 夕刻 ホテルに再集合。専用バスで空港へ移動し出国手続き 深夜 空港へ移動し出国手続き
8/21 (日)	未明 日本への帰着便にて各空港へ 早朝 空港到着後、解散、各自自宅へ移動

表2 海外研修参加者の役割分担（参考資料）

人数	担当	役割
1	会長	学会代表
1	団長	全体の取りまとめ
2	副団長	団長補佐（現地での発表）
2	事務局	HPへの掲載・予算調整
2	会計	支払手配・会計報告の作成
2	会計監査	会計報告の作成への助言
3	庶務	土産・お礼の準備
4	画像記録	写真・動画等の共有
4	文書記録	全員で書く報告書の編集
2	救護	救護担当（養護教諭の方）
4	通訳	資料翻訳・通訳

## Westwood Primary School

新設の小学校で、学校の特徴作りのため、ポジティブ心理学理論を用いた実践の先進校であるオーストラリアの学校に学び、全校で交流し、取組を共有し、保護者や地域にも発信しているそうです。この取組は、実践の高度化や子どもたちの動機づけに役立っている様子でした。



## Hogan Secondary School

感謝の心の教育に取り組む学校であった。子は保護者を大切に、とは当然のことですが、昨今ではそれをきちんと学ぶことはないように思いました。校長先生が、生徒たちにそうした心情を涵養することが学校の役目の一つだといわれていたことがとても心に残りました。

## Mental Health Institute Singapore

メンタルヘルス (MH) に関する取組にホームドクター的対応を提案し、精神科領域受診への抵抗の影響を最小化し、MH 課題を地域の問題とする役割を果たす活動を行っているそうです。



## Singapore Ministry of Education

本研修で、教育局が中核機関となって施策を示し、1996年に教師経験者をスクール・カウンセラーとして任命してから、2013年の常勤化や全校配置に至るまで、必要な法律を整え、それを受けて各校が学校独自のプログラム構築を行う方針へと変遷してきたと伺いました。この改革は、より適切な方針への段階的で混乱の少ない体制変更として進んでいる様子でした。改革案を示し、実践の充実に向け微調整を行うという発想は、参考になる流れでした。



## シンガポールの学校教育

シンガポールでは「人材が唯一の天然資源である」との共通理解の中で、学力に偏重した教育から、国を支える人材を育むための全人的教育と、それに必要なスタッフの配置や教育制度改革が着実に行われてきていました。日本でもベテラン教師の大量退職は着実に進んでおり、積み上げてきたこれまでの教育のよい点を明らかにし、経験の浅い教師に伝え、担任の役割分担を見直すなど、職務遂行の方法を再検討することも必要ではないかと強く感じました。

加えて、今回の訪問では、現地の多くの方々が真心をもって関わって下さいました。また、参加の皆様の支え合いが、ピア・サポートとして発揮されていました。そうした繋がりを大切に今後も交流を続けていきたいと感じる研修でした。